

## 研究対象としての地域医療

自治医科大学 地域医療学センター 地域医療学部門(研究コーディネーター) 松本 正俊

このニューズレターを読んでおられる方の多くは、地域医療の第一線でご活躍中の先生方かと思えます。そのような先生方の中には、地域医療を実践の対象とするのみならず、研究の対象にもしてみたいというアカデミックな好奇心を抱いておられる方も多くいらっしゃるかと思います。しかしながら「研究対象としての地域医療」に具体的なイメージが湧きにくく、何にどう手をつけたら良いか分からない、どこに相談を持ちかけたら良いか分からない、というのが正直なところではないでしょうか。今回はそのような先生方の一助となればと思い、筆を執ることにしました。



地域医療学センター地域医療学部門は長年に渡って「地域医療研究」を行ってきました。地域医療の現場に直接還元できる研究、日本の地域医療の向上に貢献できる研究を目指し、様々な角度から地域医療を分析してきました。今回は当部門における地域医療研究の現状をご紹介します。

当部門の前身である地域医療学教室で研究が行われ始めた頃、「地域医療研究」という分野は全く未分化であり、その内容は曖昧模糊としておりました。個々の研究者が思い思いの内容を思い思いの方法で研究していました。そういった中で研究者自身が成長し、研究内容が成熟してくるに従い、次第に扱うテーマに一貫性が見られるようになり、その結果として「地域医療研究」の具体像が明確になってきました。また方法論的にも科学的に厳密な手法が用いられるようになり、その研究成果は国内外の学術団体の評価に耐えるものになってきました。現在当部門が行っている「地域医療研究」は大別して、(1) 地域医療の現状分析、(2) 地域ベースでの疫学研究、(3) 地域医療教育の研究および(4) その他の4領域に分類されます。以下にそれぞれの領域についての説明を行います。

### (1) 地域医療の現状分析

日本全国のへき地医療機関、へき地自治体、へき地勤務医師にアンケート調査を行い、地域医療の現状を包括的に分析した「地域医療白書」を、地域医療振興財団の協力を得て、5年おきに出版しています。また、この「地域医療白書」のデータを用いた研究論文も多く発表され、それにより学位を取得した例も複数あります。「地域医療白書」以外にも、日本の医師の地理的分布の現状分析や、医療機関同士の連携に関する調査や、都市部の医師の意識調査なども行われています。こういった研究は単に学術的価値のみではなく、政策用エビデンスとしての実利的価値を多分に含んでおり、地域医療の危機が声高に叫ばれている現状において、ますますその重要性は増してゆくものと思われれます。

### (2) 地域ベースの疫学研究

地域住民を対象としたコモンディジーズの疫学研究も盛んに行われています。この領域で当部門が行っている大規模プロジェクトとしては、JMSコホート研究と、大規模地域ゲノムバンクがあります。JMSコホート研究についてはニューズレター第7号(2007年5月)に詳細が載っていますのでそちらをご参照下さい。大規模地域ゲノムバンクは21世紀COEプログラムとして文部科学省に採択された研究プロジェクトであり、現在データの収集作業を終えたところです。詳細は自治医科大学のホームページ上に記載されていますのでご参照ください。また、個人レベルで行われている疫学研究もあります。過去に多くの先生方が、JMSコホートなどの疫学研究によって学位を取得されました。

### (3) 地域医療教育の研究

地域医療推進課と学事課の協力を頂き、自治医大卒業生の勤務地の追跡調査を行い、地域医療教育機関として自治医科大学が果たしてきた役割や、義務後も地域に残る卒業生の特性などについて分析しております。また、過去には全国の医学生に対する大規模なアンケート調査を行い、日本の

地域医療教育の現状や、医学生への地域医療に対する意識を分析し、学位を所得された方もおられます。近年、多くの大学医学部において「地域枠」が導入あるいは導入検討されるようになっており、地域医療教育に対する意識が高まっている中、自治医科大学発のこういった研究成果が果たす役割は大きいと思われま。

#### (4) その他

また、上記の分類には属さないものの当部門で行われた研究内容として、ヘルスサービス研究や代替医療の研究などがあり、それぞれ学位取得者がおられます。今後は総合診療やプライマリ・ケア領域での臨床研究や、分子・細胞レベルの研究なども当部門の守備範囲に入ってくるのが予想されます。

研究指導は原則として、大学院生（研究生）各々に対して一名の指導教員がついて行います。各自が自分のテーマを持ち込んで研究する場合は、最大限そのテーマを尊重しサポートいたします。また、特に定まったテーマが無い場合は、上述の研究プロジェクトのどれかに入っていていただくか、指導教員との相談でテーマを決めて頂きます。日々の研究は指導教員とマンツーマンで進めていただきますが、今年度からは月に一回ほど研究サポート会議を催し、他の大学院教員も交えて研究進捗状況の確認やサポートを行っていく予定です。

最後になりましたが、価値のある地域医療研究は、研究機関と地域の現場とが密に連携しあつて初めて可能となります。地域の現場で生じた問題、地域の現場から浮かび上がってくる疑問、そういったものを研究対象にしてみたいという先生方がおられましたら、遠慮なく当部門にご相談ください。お待ちしております。

## 論文博士申請に必要な要件の変更について

平成19年9月27日（木）に開催されました教授総会において、医学研究科委員会の審議事項が報告され、承認されました。その中に、下記に示しました論文博士（乙種）申請に必要な要件についての取決めがありました。既に周知事項となっておりますが、研究生として学位を目指している方々にとっては重要な問題ですので、改めて地域医療オープン・ラボ News Letter に掲載することにしました。

この他にも論文博士（乙種）として学位を取得するためには、研究歴が5年以上必要なことや語学試験としてTOEICのスコア500以上を求められることなどがあります。指導教員と良く相談するとともに、不明な点は、自治医大の学事課（TEL 0285-58-7044/FAX 0285-44-3625）あるいは地域医療オープン・ラボ（[openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)）にお問い合わせ下さい。

### 論文博士申請に必要な要件

- ①主要論文（学位申請者が筆頭著者となっていること）の中で、学位論文の中核となる研究に関する論文は原則として、紹介教授又は紹介准教授が共著者となっていること。  
\*主要論文とは「学位論文に直接関連する原著学術論文」を言う。
- ②主要論文数
  - ・学位論文の中核となる研究を本学で行った場合：1編以上
  - ・学位論文の中核となる研究を本学以外の機関で行った場合：2編以上
- ③特別な理由がある場合を除き、主要論文のうち1編は、申請日の属する年の3年前の年以後に掲載されたものであること。
- ④この取扱いは、論文博士申請者全員に適用させ、平成21年4月1日から施行する。
- ⑤特別な事由がある場合には、幹事会において審議し、承認後、学位の申請を認めることもある。

### <学外者が論文博士を申請する場合>

\*本学に学位を申請する理由を記した書類を、学位申請者紹介書と併せて紹介教授（紹介准教授）から幹事会あてに提出し（学位申請に必要な書類一式も提出）、幹事会において学位申請受理について審議する際の参考資料とする。

自治医科大学大学院医学研究科

### 地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7044/FAX 0285-44-3625/e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>